

発行所 日本共産党愛知県委員会

〒460-0007 名古屋市中区新栄三丁目12番25号

☎(052) 261-3461 (代表)

(052) 251-2925 (編集部) F A X (052) 261-6063

定価 月 400円 郵送料 336円 1部 100円

毎週日曜日発行 (第5日曜日は休刊)

週刊 愛知民報

2023年
7月16日
第2641号

愛知県議会 6月定例会

共産党
しもおく議員

「ラーケーション」の問題点をズバリ指摘 教育現場に混乱と負担持ち込むな

愛知県議会6月定例会は最終日の6日、一般会計補正予算案などの議案を可決して閉会しました。日本共産党の、しもおく奈歩議員(豊橋市区)は、「ラーケーション」(平日休みの保護者に合わせて子どもが学校を休み、家族で活動する機会をつくる制度、名古屋市は現時点で導入しない方針)の事業費6億8000万円を盛り込んだ一般会計補正予算案などに反対の立場から討論をおこないました。討論のうち、ラーケーションに関する部分を紹介し、他の議案の反対理由は2面で紹介します。



本会議で討論に立つ、しもおく奈歩県議=6日、愛知県議会本会議

大村県政の「目玉」 「休み方改革」

この補正予算には、ラーケーションと長年の懸案である特別支援学校の長時間通学や教室不足の解消につながる2つの特別支援学校の設置や低所得者世帯への子育て支援と、県民福祉の向上につながる予算も盛り込まれていますが、以下の2つの理由で賛成できません。

1つ目は、ラーケーション推進事業費です。4点、問題を指摘します。

学習の遅れは 自習でカバー

第1に、学習の遅れをカバーする手立てがないことです。ラーケーション取得によって、受けられなかった授業は自宅の自習でカバーしなさい、と家庭でも、学習の補充ができるのは限りません。技術や調理実習、音楽など家庭では自習

が難しい。先生が足りず多忙化しているのは困難です。学びの保障が大変心配です。

計画的なクラス 運営に不安

第2に、学級や学校運営は難しく、校外学の運営に重大な支障を招きかねません。いつ、何人、休むかわからないのでは学級・学校の運営ができません。

制度使えない家庭 格差広げる

第3に、子どもたちの間に、格差を広げ、ゆとりのある家庭は自己肯定感の低下を招きかねません。

ラーケーションの難しい家庭もあり、格差拡大になるとの心配があります。休めない保護者、生活保護を受けている家庭、親が病気を患っている家庭、シングルマザーやシングルファーザーの家庭など、自己肯定感が下がります。

教員の多忙化 解消に逆行

第4に、休み方改革と言いつつ、教員の長時間労働・多忙化解消に逆行します。新たな制度で現場の負担は大きく、休めたくても休めない状況に追い込まれかねません。

子どもに合わせて 休みやすい社会を

そもそもいったい誰のための休日なのでしょう。ラーケーションはトヨタカレンダーが追い風になった。知事も会見で「経済団体、産業界から休日、親子でいろいろな活動がしたいと要望があった」と語りました。大企業の要望が後押しになったのです。ラーケーションよりも、子育て中の従業員が、子どもや学校に合わせて休みやすい社会にすることにこそ、知事の責任です。

教育現場に混乱と負担、格差を広げるような制度を持ち込むべきではありません。